

★ 提案39に賛成の議論 ★

有権者ID:選挙への信頼を高める超党派的な取り組み

民主党、無所属、共和党の有権者は皆、ある一点で意見が一致しています。それは、有権者IDが、選挙への信頼を高め、投票率を向上させるための常識的な改革であるということです。

だからこそ、提案39を投票にかけるための署名のほぼ半数は、民主党支持者や無所属の有権者から集まったものであり、世論調査でも、すべての政党にわたって有権者IDに対する幅広い圧倒的多数の支持が示されています。

提案39は、投票へのアクセスを確保し、無料の有権者IDを保証します。

提案39は、不在者投票、投票時間の延長、および投票の利便性を高めるその他の措置をすべて維持します。

有権者は、入手が容易なさまざまな公的身分証明書をを使って投票することができます—さらに、この措置では、希望するすべての有権者に無料の有権者IDを保証しています。

Californiaでは現在、不在者投票の署名を検証する手続きに時間がかかっており、これにより選挙結果の発表が遅れるだけでなく、署名が不一致と判定された場合、投票がカウントされないリスクも生じています。多くの有権者は、何年も前に初めて投票するための登録をした際、どのように署名したかを必ずしも覚えていないと語っています。前回の選挙では、署名の不一致を理由に10万票以上が無効とされました—さらに20万人以上の有権者が、自分の投票を有効にするためだけに面倒な手続きを強いられました。

有権者IDが投票への参加を増加させる

有権者IDは投票を抑制するものではありません—それどころか、有権者の投票参加を増加させます。有権者ID法を制定し、かつ、身分証明書の取得が経済的に困難な、あるいは入手できない有権者に対して無料で身分証明書を発行しているすべての州で、投票率が上昇しています。投票の抑制や投票率の低下は、有権者が選

挙プロセスの公正性に信頼や確信を持っていない場合に生じます。有権者IDは、すべての有権者に、自分の一票が意味を持つと信頼できる理由を与えます。

提案39には、監査および市民権の確認が含まれる

提案39は、Californiaの有権者名簿を正確かつ最新の状態に保つ責任を選挙担当官に課しています。また、選挙担当官は、市民のみが登録されていることを確認するため、有権者名簿の照合を行うことが義務付けられます。提案39では、選挙の実施方法について市民が当然持つべき信頼を確保するため、2年ごとに独立した監査を実施することが義務付けられています。

提案39に賛成:有権者IDに対する超党派的な解決策のために

提案39に反対する政治家や党派団体は、この議論に有害な党派対立を持ち込もうと躍起になっています。それは、根拠のない選挙に関する陰謀説や、選挙に対する信頼の急速な低下が彼らに有利に働いているからです。

対照的に、提案39の支持者には、民主党、共和党、無所属の有権者の確固たる多数派に加え、ラテン系アメリカ人政治協会、California女性リーダーシップ協会、Howard Jarvis納税者協会、透明性財団、そして信頼できる投票権擁護団体など、多様な団体が名を連ねています。

超党派的な形で有権者IDを導入するための全国的なモデルを確立するため、提案39に賛成の票を投じてください。

Margit Whitlock、民主党系連合議長

有権者IDを支持するCalifornia州民の会

Tafa Jefferson、共和党系連合議長

有権者IDを支持するCalifornia州民の会

Joe Green、無所属連合議長

有権者IDを支持するCalifornia州民の会

★ 提案39の賛成意見に対する反論 ★

提案39に反対—Trumpによる選挙不正操作を阻止しよう。嘘を信じてはいけません。提案39は、California州民にとって、投票をより困難にし、費用をかけさせ、安全性を損なうものです。

提案39は、MAGAを支持する右派の超富裕層たちから資金提供を受けています。資金の流れを追ってください。MAGA支持の超富裕層たちは、選挙に関する虚偽情報を広めるために数百万ドルを費やしてきました。共和党の活動家たちは、長年にわたりこの有権者抑圧策を推進してきました。彼らは、Trumpに無制限の権力を握らせ、富裕層への減税をさらに進めると同時に、一般市民向けの医療や教育への予算を削減しようとしているのです。

California州の選挙担当官は、すでに有権者の確認を行っています。提案39は、市民にとってさらなる障壁を追加するだけです。事実は嘘をつきません。Texasが同様の措置を試みた際、Californiaの12倍もの数の郵便投票が無効とされました。

提案39は、個人情報盗難という新たな脅威を生み出します。いかなる市民も、プライバシーと投票権のどちらかを選ばなければならないような状況に置かれるべきではありません。

無党派の法律アナリスト室は、提案39により毎年数億ドルの費用がかかる可能性があるとの調査結果を公表しました—ぜひご自身

でその内容をご確認ください。MAGAの過激派たちは、納税者のお金を使って、Trumpに高価な贈り物を贈ろうとしています。それは、資格のある有権者を排除し、Californiaで「大嘘」に勝利をもたらすことです。私たちはその手には乗りません。

提案39は、Trumpとその億万長者の仲間たちが、いかにしてアメリカ国民を裏切ったかという事実から、私たちの目をそらそうとするものです。病院は閉鎖されています。火災の被災者はいまだ支援を待っています。食料品や住宅の費用は、これまでにないほど高騰しています。そして今度は、私たちの選挙を支配し、説明責任を回避するために提案39を利用しようとしています。

王はいらない。嘘はいらない。提案39もいらない。

Alex Padilla、California選出連邦上院議員

Catherine Kennedy、会長

California看護師協会

Adam Weinberger、会長

California州学校職員協会

★ 提案39に反対の議論 ★

反対票を投じてください。Donald Trumpは選挙について嘘をつき、その嘘を利用して権力を握ろうとしています。

Trumpによる権力の奪取を阻止しましょう。TrumpはCaliforniaへの報復を望んでいます—LAの山火事被災者への支援を遅らせ、大気や水質をきれいに保つための法律を撤廃し、私たちの移民の友人や隣人たちの繰り返し攻撃してきました。そして今度は、提案39によって私たちの自由と民主主義を覆そうとしています。

Trumpの取り巻きたちは、連邦議会とホワイトハウスの支配を掌握し維持するために、Californiaの選挙を不正操作しようとしています。Trumpは、私たちの投票権を破壊し、説明責任を逃れ、権威主義的な権力を維持するために、あらゆる手段を講じるでしょう。

California州民はその手には乗りません。私たちには、提案39に反対の投票をすることで、反撃しTrumpを阻止するチャンスがあります。Californiaを、「どの有権者の票を数えるか」を政治家が決めるような次の州にしてはなりません。

数億ドルの浪費。Trumpとその共犯者たちは、自分たちの選挙に関する嘘や陰謀論を追求するために、Californiaに数億ドルもの費用を使わせようとしています。California州民は苦しい生活を強いられているというのに、Trumpはあなたにその陰謀論の代償を払わせようとしています。

個人情報に危険にさらす。提案39は、すべての郵便による投票の有権者に対し、返送用封筒に個人情報を記載することを義務付けます—これにより、有権者は個人情報盗難の標的になりやすくなります。有権者は、投票するか、プライバシーを守るかのどちらかを選ばなければならないことになります。

市民の投票を妨げる。提案39は新たな障壁を設けます—有権者は投票用紙の封筒に個人ID番号を記載しなければならず、その番

号は州の記録と完全に一致しなければなりません。たった1桁でも間違えると、有効な投票用紙が無効とみなされる可能性があります。投票にどの身分証明書を使用したいかを当局に別途通知する手続きを行わない場合、不在者投票用紙がまったく届かない可能性があります。また、身分証明書に記載されている住所が最新のものではなかったり、名前の綴りが間違っていたりすると、投票が無効になる可能性があります。

有権者を締め出す。「無料」の州発行IDは実際には無料ではありません。有権者は依然として、交通費、仕事を休むための費用、育児費用や必要書類の取得費用などを負担することになります。高齢者、学生、低所得の労働者、有色人種の有権者、そして結婚を機に姓を変えた何百万人も女性が、最も深刻な打撃を受けます。こうした不公正な障壁は、有権者が政治家を選ぶのではなく、政治家が自分の有権者を選ぶことを助けてしまいます。

Trumpは権力を握るために嘘をつきます。その嘘にあなたの一票を奪わせないでください。

あなたの声を守ろう。あなたの一票を守ろう。反対に投票を。

詳しくはCAforVotingRights.orgをご覧ください。

David Trujillo、専務取締役

ACLU California政治・立法活動財団

Darius Kemp、California州局長

コモンコース

Lorrel Plimier、共同代表

California女性有権者連盟

★ 提案39への反対意見に対する反論 ★

提案39は超党派の措置である—Donald TrumpやGavin Newsomとは関係ない

提案39は、選挙の安全性確保のためにCaliforniaに超党派の解決策をもたらすものです。D.C.の政治家たちが選挙をめぐる党派的な主導権争いを続けている一方で、California州民は独自の解決策、すなわち有権者IDを導入することができます。反対派は、この措置がDonald TrumpやGavin Newsomに関するものだと言主張するでしょう。そうではありません。提案39は、選挙に対する不信感の高まりに対するCaliforniaの解決策です。民主党系、共和党系、無党派の人々はいずれも、巨額の資金が絡む党派的な主張を退け、有権者の参加を促進し、かつ選挙を保護するために、提案39に賛成票を投じるよう呼びかけています。

提案39は選挙運営を改善します

提案39は、有権者名簿の正確性を向上させ、選挙運営を強化するための独立した監査を義務付けます。

有権者IDは選挙への信頼を高めます

有権者ID法を導入している州では、投票参加率の低下は見られていません。有権者が選挙を信頼すれば、投票率は高まります。

提案39に賛成

反対派は、これは国政に関することだ、あるいは有権者IDは投票を抑圧するものだと言主張するでしょう。騙されないでください。提案39は、民主党員、共和党員、無党派、そして老若男女を問わず、さまざまなコミュニティのCalifornia州民から支持されています。

Californiaは、選挙への信頼を強化しながらも、資格のある有権者にとって投票しやすい状態を維持すべきだとお考えなら、クリーンで超党派的なCaliforniaの解決策として、提案39に賛成の投票をしてください。

Johnathan Hale、専務取締役

透明性財団

Cynthia Kauai、専務取締役

California女性リーダーシップ協会

Ed Cervantes、会長

ラテン系アメリカ人政治協会